

県民グラフ

目で見る県勢

1966

日本海時代の開拓



港口切断を待つ富山新港

対岸貿易の拡大、中部経済圏の確立、日本海沿岸地帯の振興は、富山県民の悲願であります。日本海沿岸の中央に位置する本県は、いま日本海時代を開拓するため「海の夢」である富山新港の建設に勇気と自信と誇りをもって取り組んでいます。

計画は次々に調印され実行に移されてゆく



移りゆく年月、変りゆく県土、より豊かに、より住みよく、より美しくなつてゆく富山県。

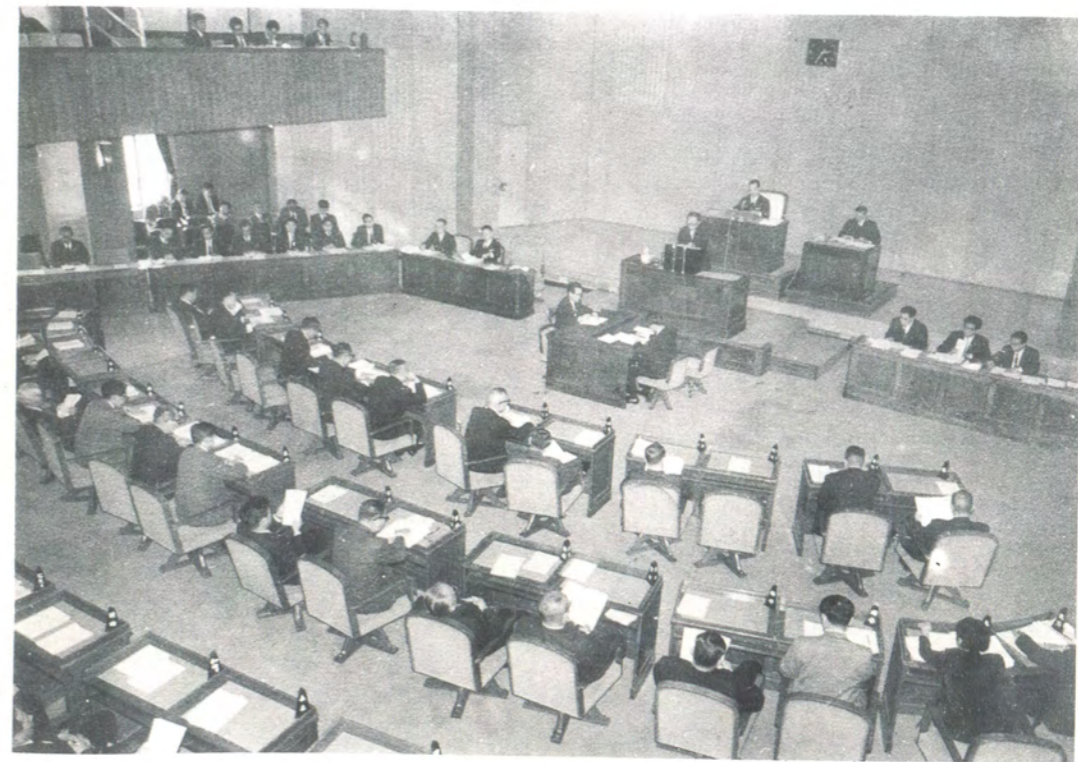
それは富山県民が勤勉で実直だといわれてきた県民性を、そのとおりに実行してきた賜であります。

自然を愛し、自然を育んでゆく富山県民は、発展してゆく県土とともに、より優れた人間像をつくりあげてゆくことでしょう。

この県民グラフは、そうした富山県民が一步一步築きあげてきたきよの富山県の姿を、空から平地から写真でとらえ、富山県政の基本方針である

- 人 間 尊 重
- 県 土 美 化
- 日 本 海 時 代 の 開 拓

の三大方針に従って登載した目で見える県政であります。



県民の声が大きく反映する県議会本会議

富山・高岡地区新産業都市建設は、国の指定を受けて1年、その建設計画は関係市町村とともに着々と実行に移しています。

新産業都市建設計画

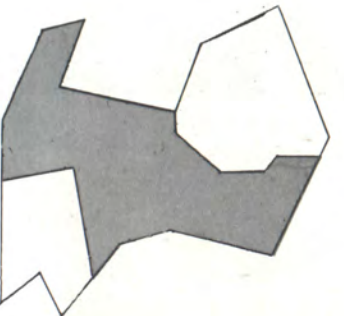
高岡市市街地

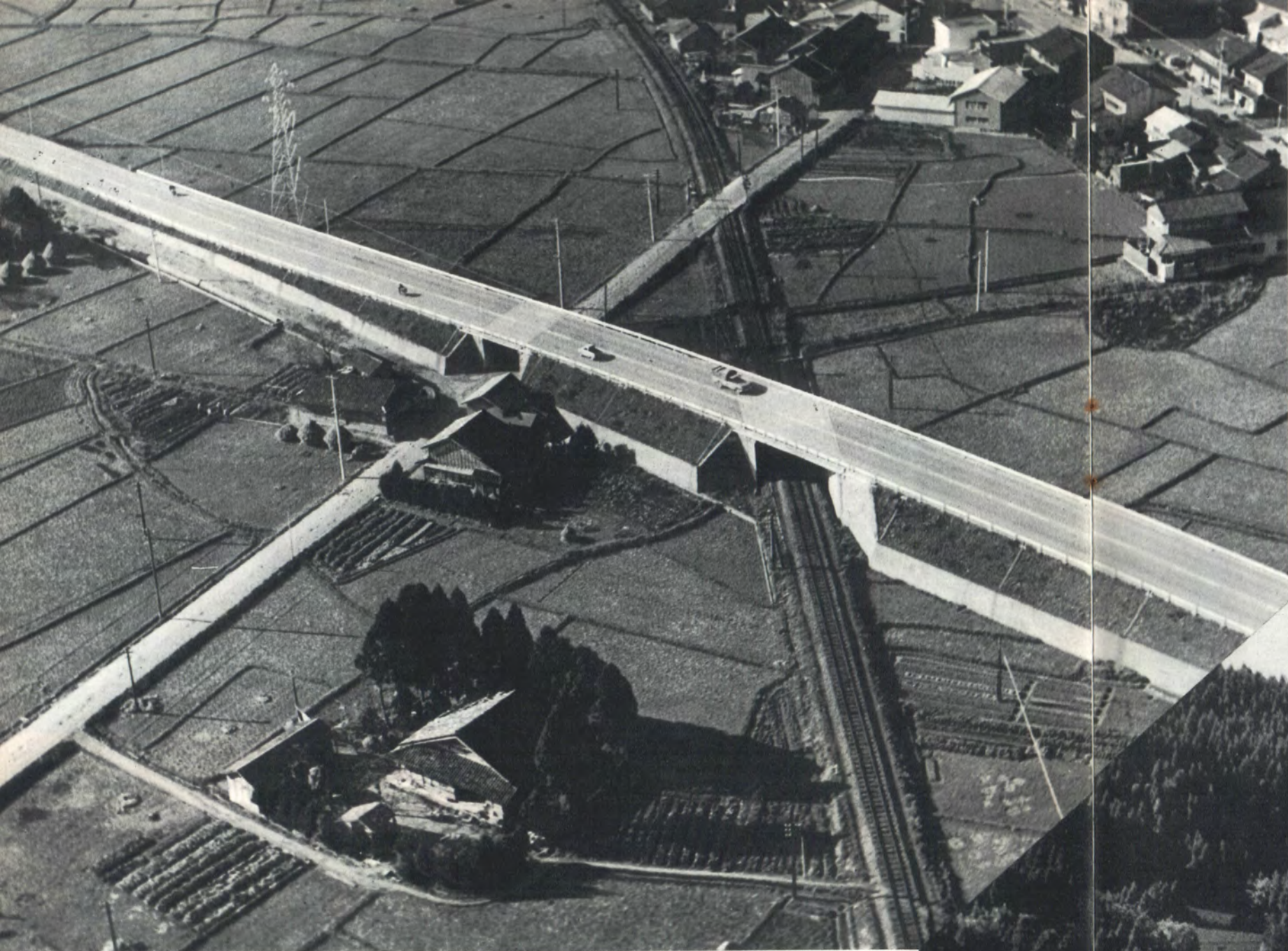


富山市市街地



完成した新港う回道路



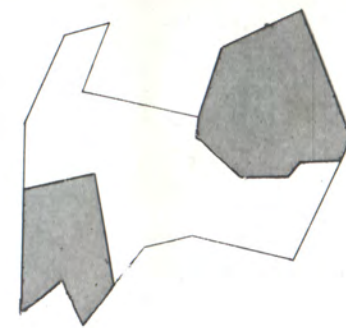


国道156号線 砺波立体交差点

奥地開発に一役をかう永久橋（上平村新屋橋）

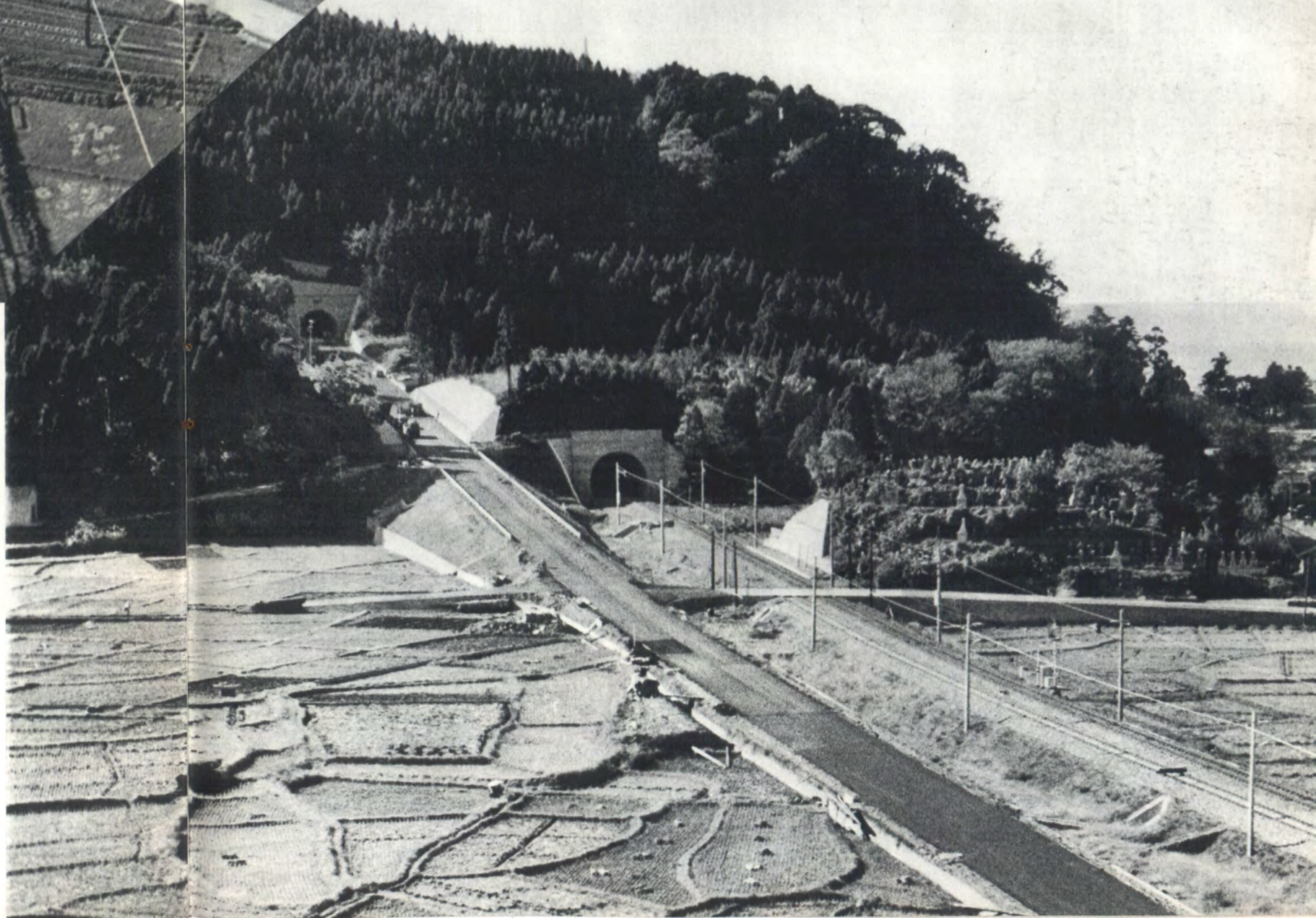


国道8号線 城山トンネル附近



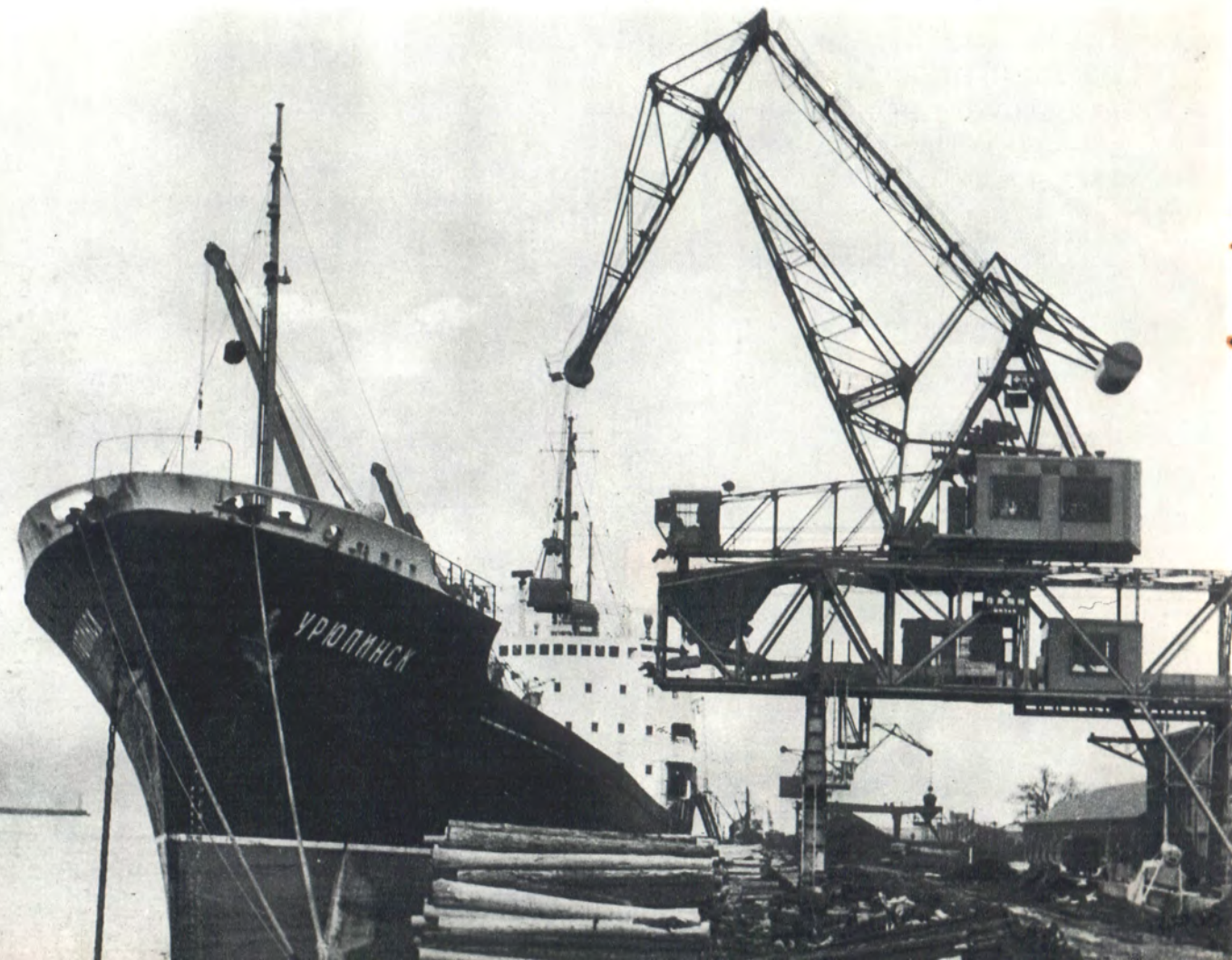
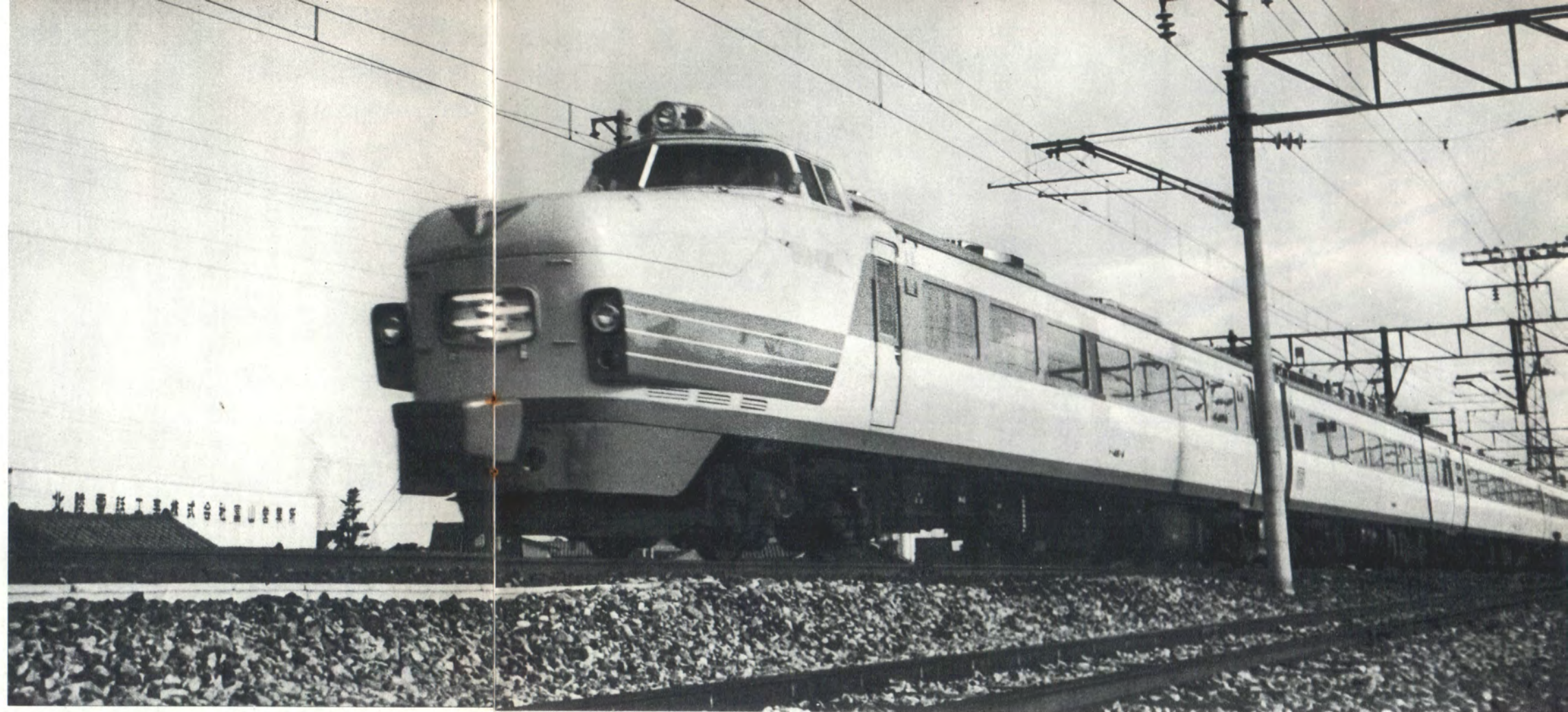
地域開発計画

新産業都市以外の地域の開発は、そのバランスを失なわないように、工業の振興、農山漁村の振興など多方面にわたる計画がたてられ、着々と実行に移されています。



進む複線電化

米原から富山を過ぎ、糸魚川まで電化された北陸線は、複線工事も急ピッチで進み、太平洋沿岸と経済・文化の交流のかけ橋になる、高山線の強化計画もいよいよ着工の運びとなりました。

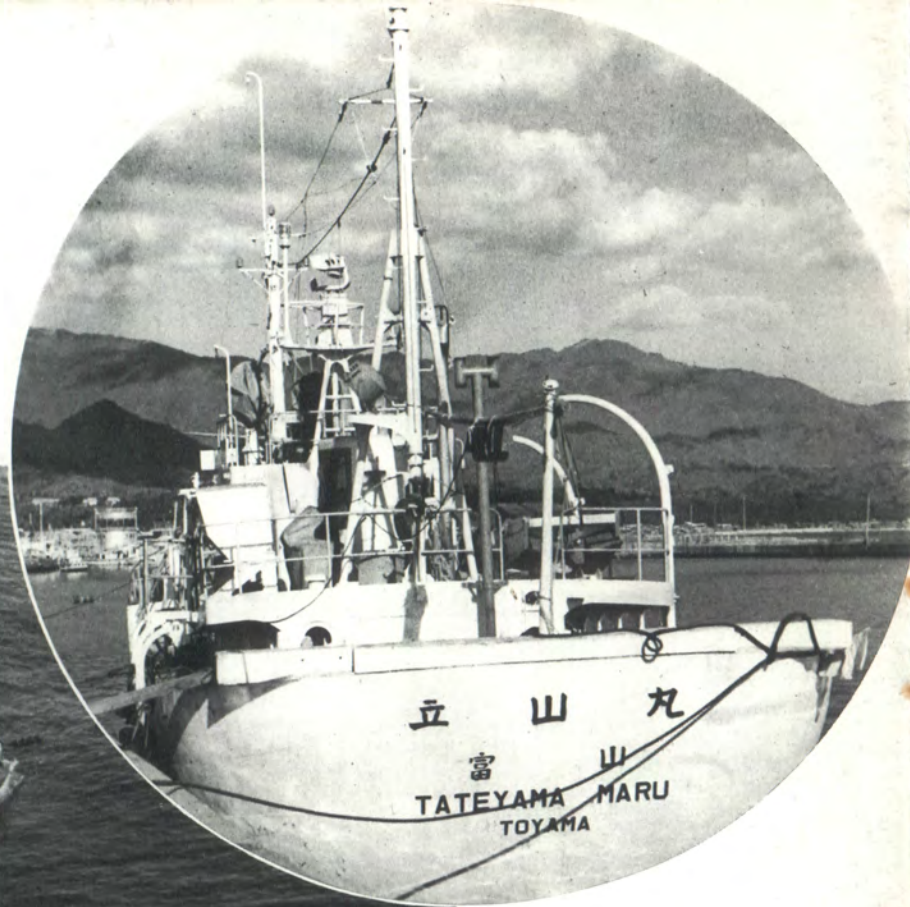


空の玄関「富山空港」は、日増しに賑わい、大型の飛行機の離着が必要となり、いま拡張整備が急がれています。

タンカーや、輸送船が、どんどん大型化して出入りする富山湾の港。



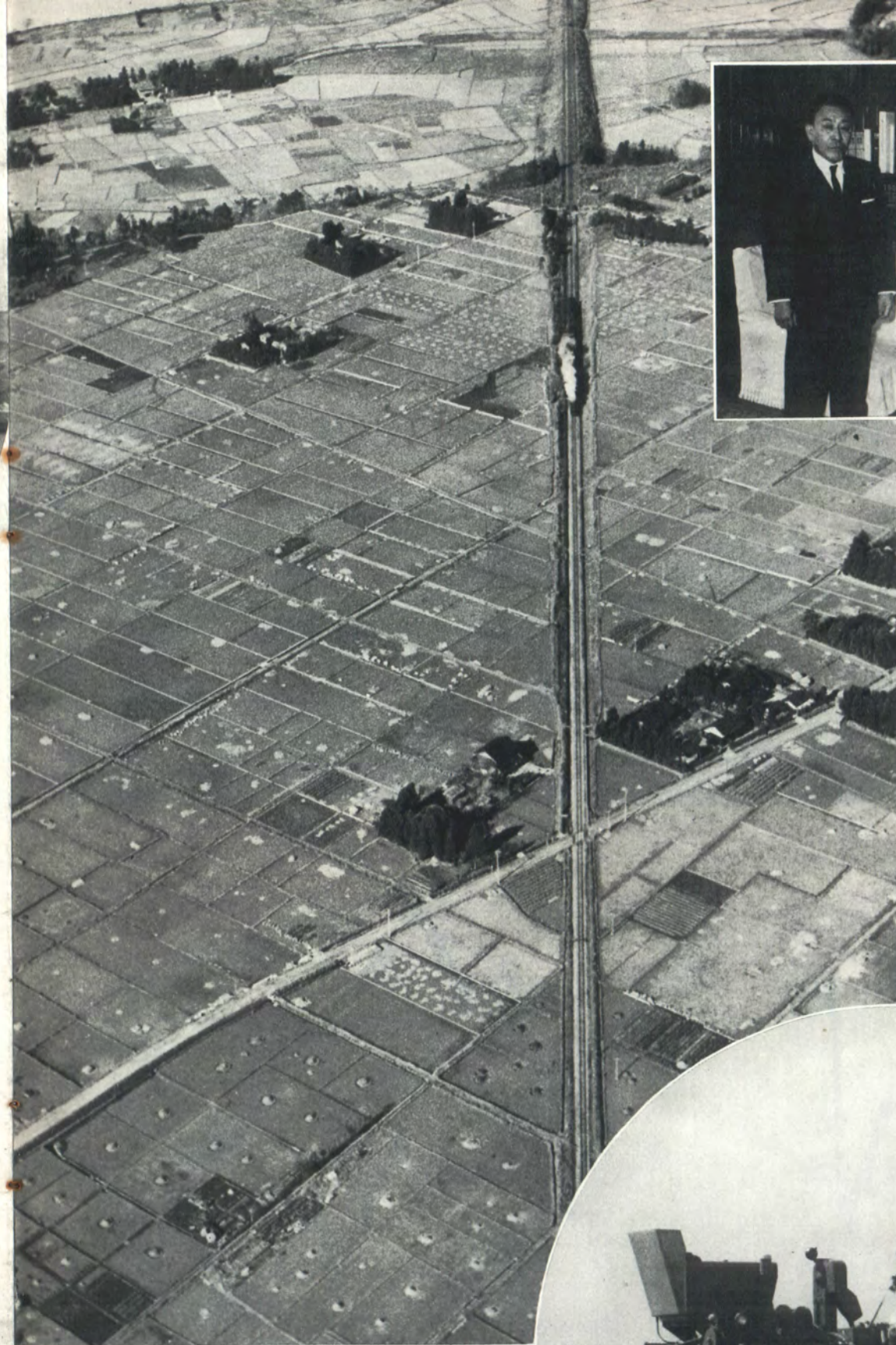
沿岸漁業に主力をおいた水産業は、
沖合、遠洋へと漁場の開発を進め、
漁港の整備や漁船の近代化など、明日の漁を求めて活発な動きをしめています。



水産業の振興



水揚げされた海の幸

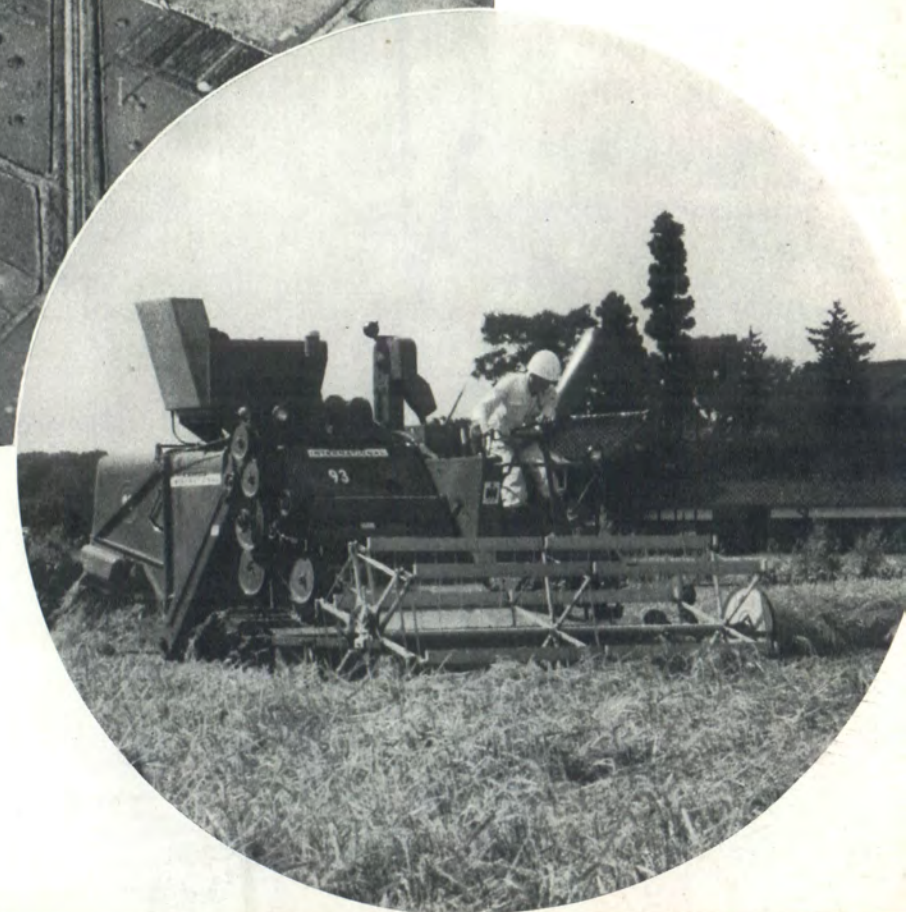


区画整理されていく田。
うなる農業機械。農業人口は全国的に減るとい
う傾向の中で、本県の農業は広範囲な施策と農民のた
ゆまない努力で、米作りに、畜産、園芸、果樹と、巾
広く進展をつづけていくのです。

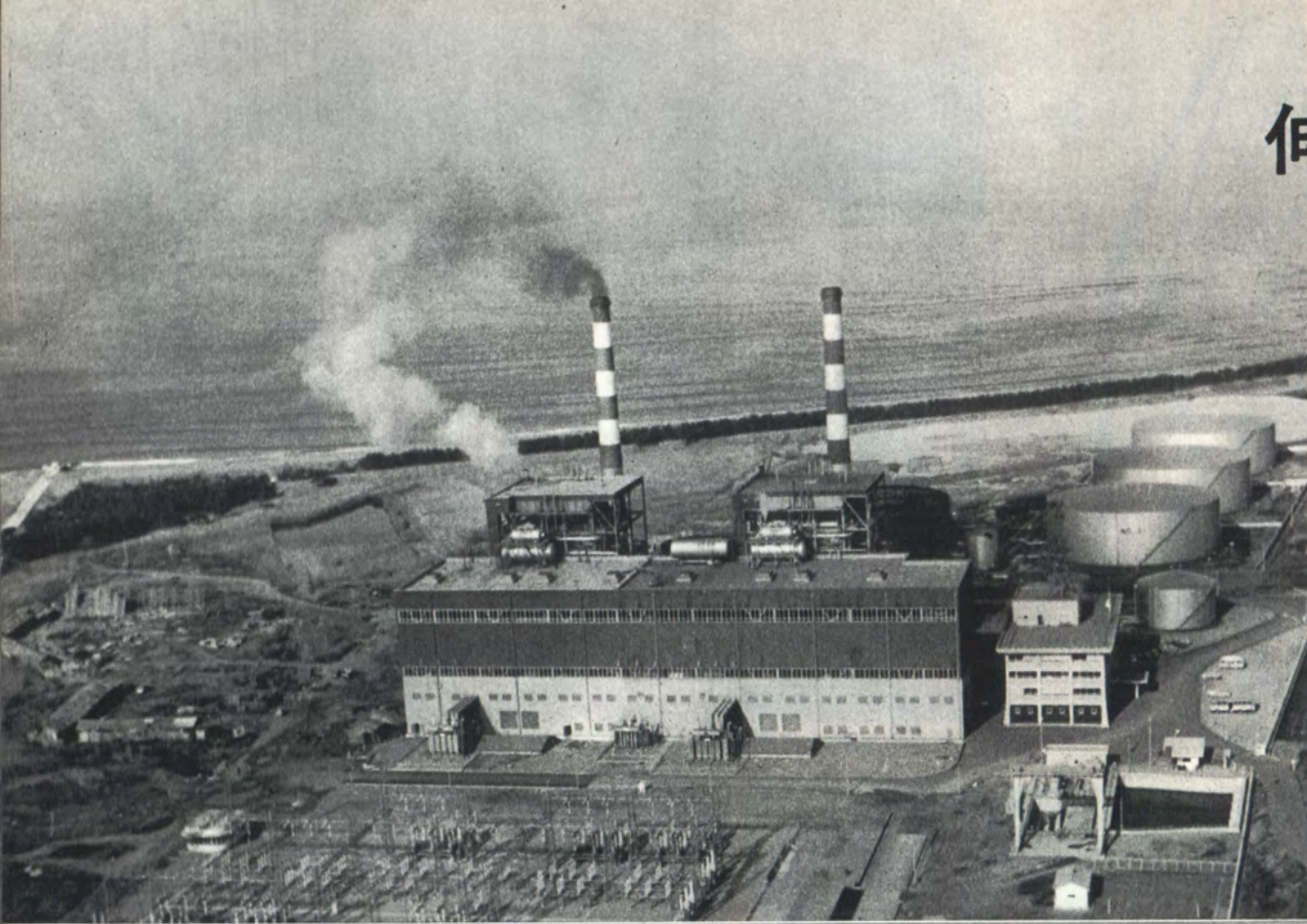


第4回農業祭園芸部門
で天皇杯を受ける

農業の振興



伸びゆく工業



火力発電所

富山・臨海工業地帯

岩瀬工業地帯



伏木工業地帯

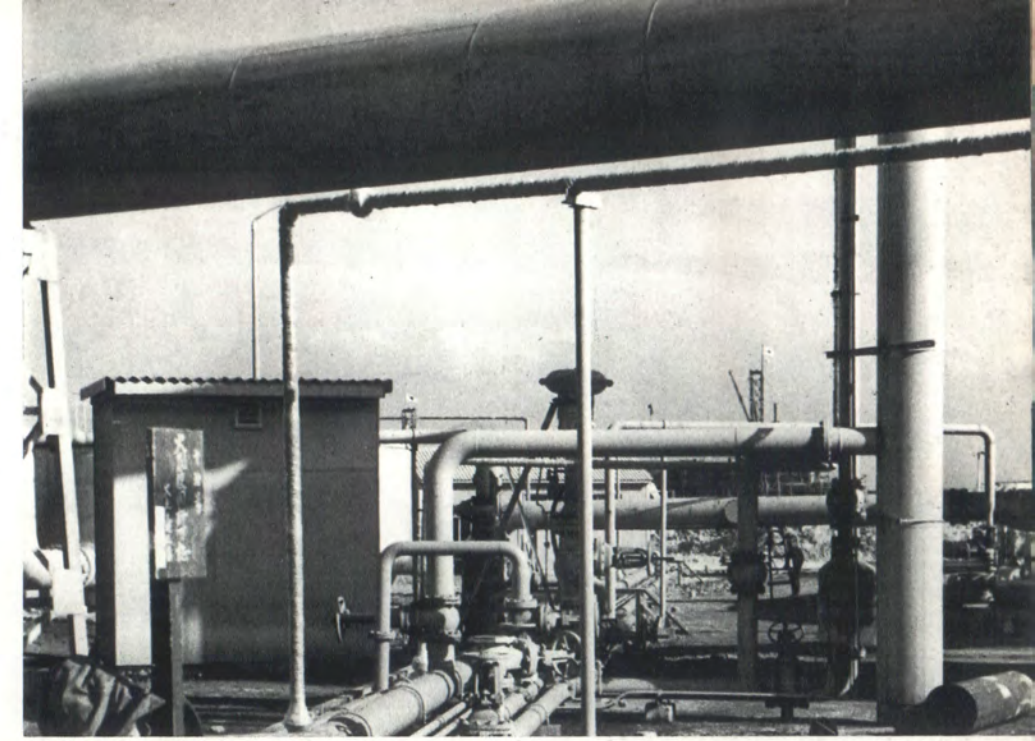
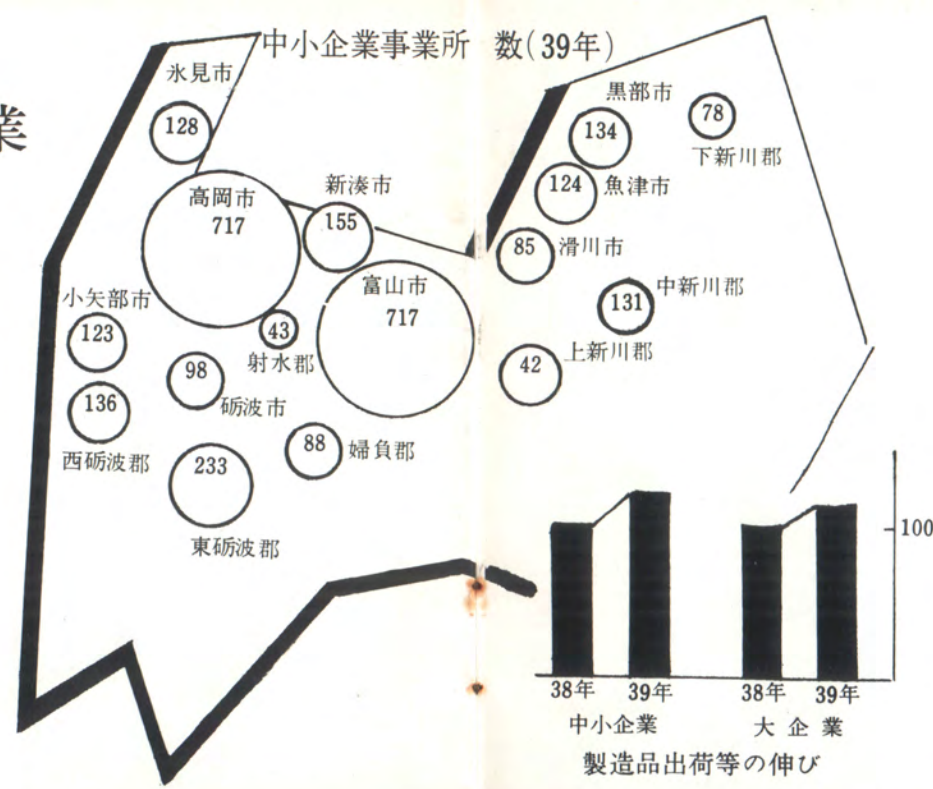
高岡・伏木工業地帯

林立する石油タンク



多種にわたる本県既存工業は、新しい技術革新と既存企業のコン
セネーションにより共榮発展し、また臨海工業地の造成によって、
工場誘致の計画も着々と進み、工業県富山の名実ともに伸びていま
す。

躍進する中小企業

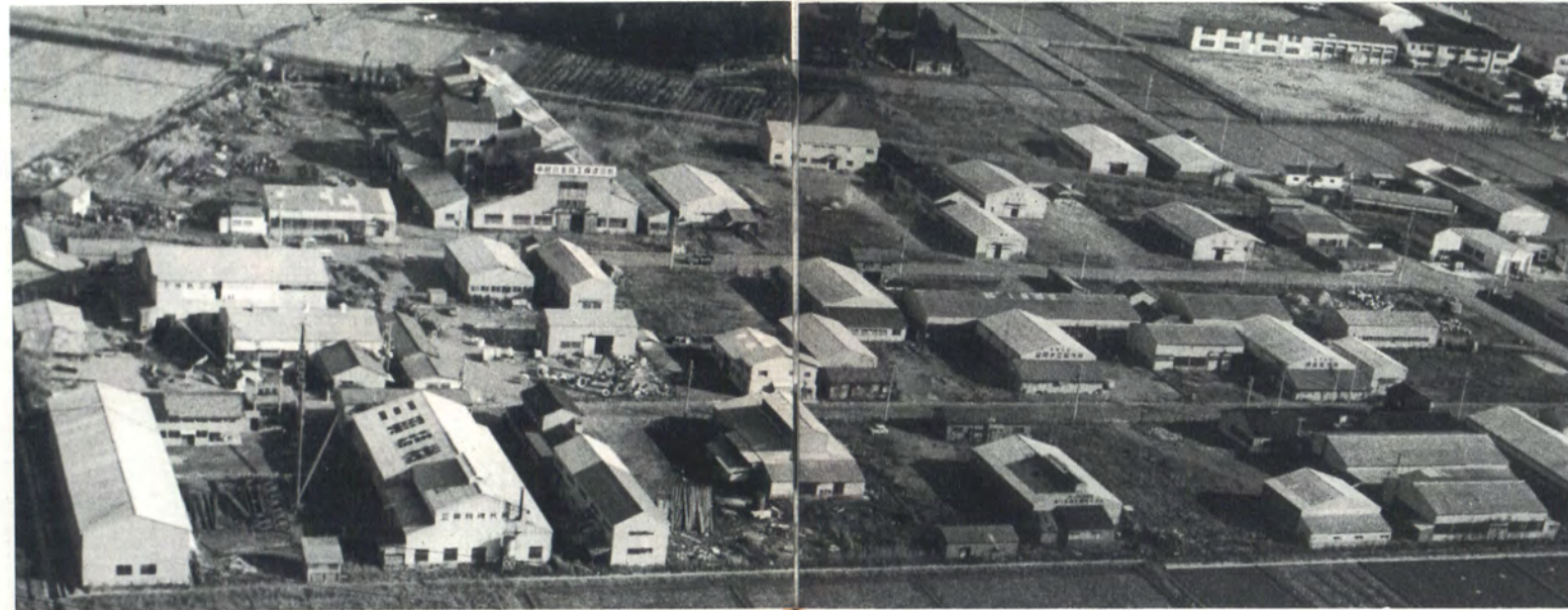


休みなく働く化学工場

オートメ化した製薬

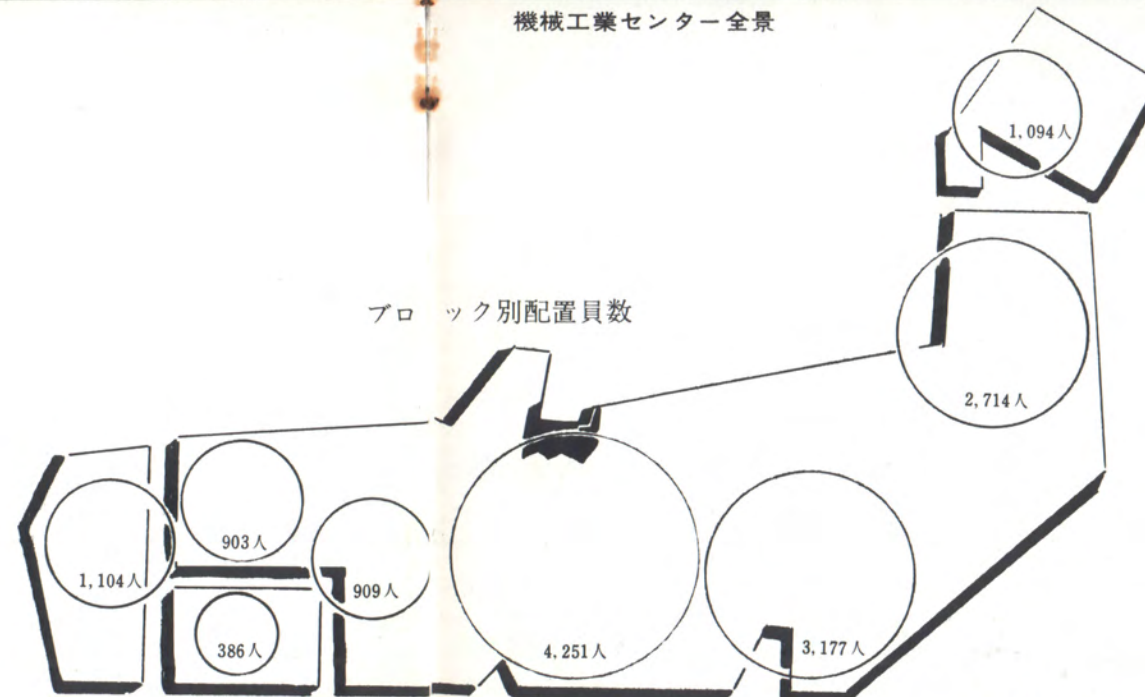


企業化された木工業



機械工業センター全景

名声を誇る高岡銅器



くすりの富山



職業訓練

企業の健全な発展を阻害している隘路の一つに、技能労務者の不足があります。
若い優秀な技能者を育成し、中高年齢層の再訓練などを行うことにより、各企業は一層躍進することでしょう。



訓練に励む高等技能学校の生徒



人命を尊重し、道徳にすぐれ、肉体労働を尊ぶ気質を養うなど、人間の魂の復活は急務であります。「期待される富山県民の理想像」は、明日を築く大きなビジョンの中で育てられていくのです。

社会教育

強健な体力をつくり、生活に潤いをもち、創造力と知力を伸ばすことは、人間社会の結合の基礎です。



県民体力づくり運動



暴力追放体制固まる

社会環境の浄化

産業の発達、文化の向上の根底となるものは、秩序ある健全な明るい社会からです。暴力でこの秩序を乱すものは徹底的に追放しなければなりません。



草農学科もある大谷技術短期大学

青少年の健全育成

戦後20年、青少年の健全な育成は、明日の富山県の育成でもあります。

科学技術教育

宇宙時代といわれ、技術革新時代といわれる現代、理科教育を始め、新しい技術を導入して、若い世代の科学への関心を高めます。

貿易の振興

日本海時代を荷なう富山新港



海外との貿易を目指

世界の平和は、東西両陣営の均衡・平和共存・民族国家の独立という3本の柱に支えられています。

しかし、真の世界平和を実現する手段としての貿易の役割を見逃すことはできません。

昭和40年5月3日、「ソ連極東物産展」が開かれたのをきっかけに、対岸貿易が伸び、大きな期待が寄せられています。



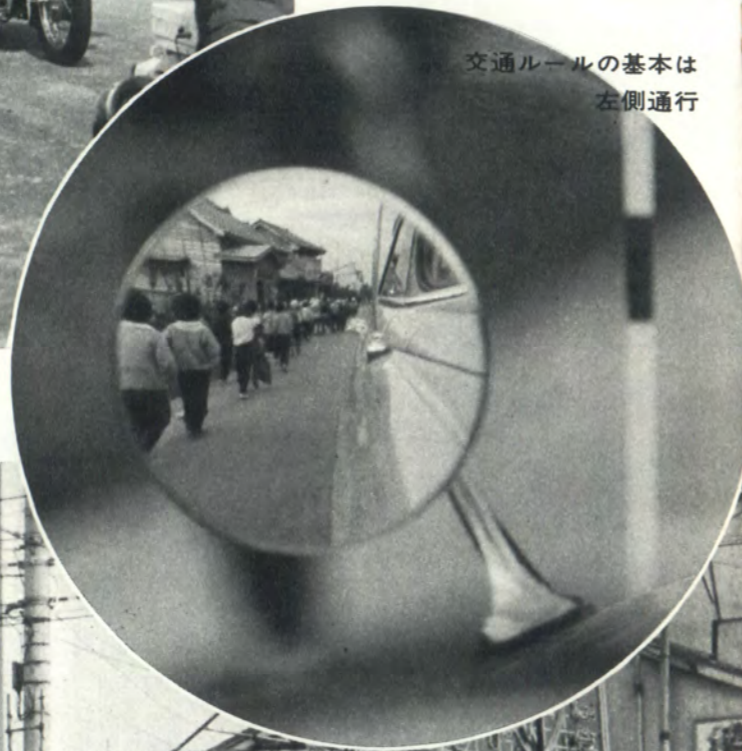
中部を結ぶ国道41号線



交通から人命を守る警察機動隊

交通安全対策

人間尊重について考えるとき、
まず生命の尊重があげられます。
日毎に起こる交通事故。
交通事故は運転する者、歩く
者みんなで交通ルールを守ること
により皆無となるのです。



交通ルールの基本は
左側通行



高架線の建設で安全交通確保



横断歩道を渡りましょう。



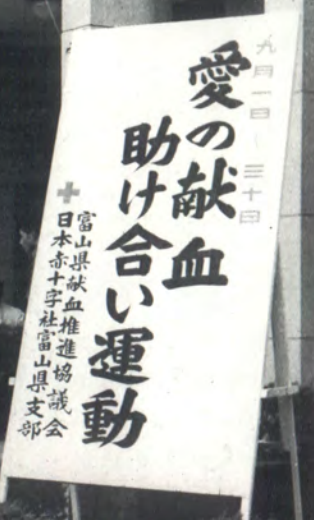
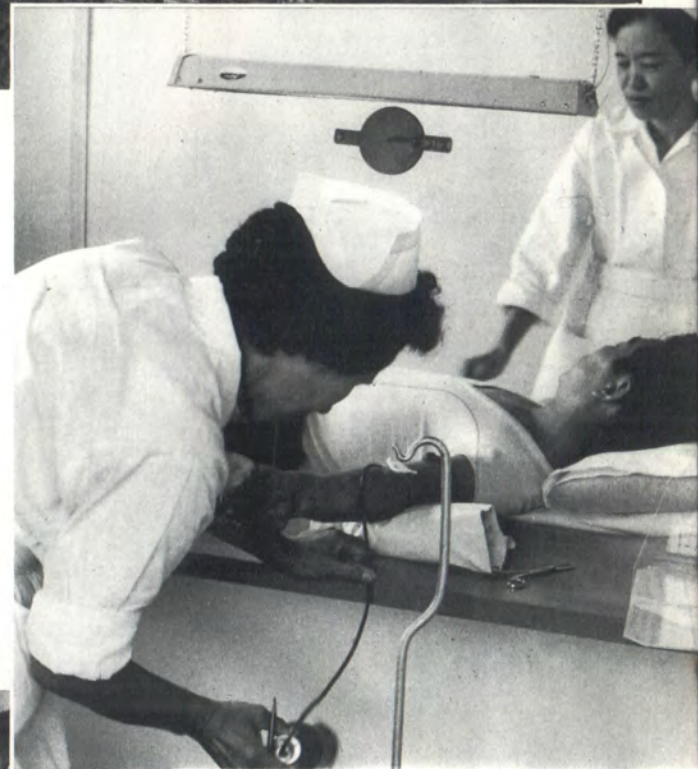
多忙な余暇をさいて交通教育



保健衛生

健康なからだで、衛生的な街に住むという願いは、人命尊重の基本であります。

新装なった中央病院(上)と、愛の献血車「しろばと号」の活躍(下)と献血(右)



社会福祉

恵まれない人たちのための福祉は施設や環境の整備とともに、一般の暖かい理解が大切です。

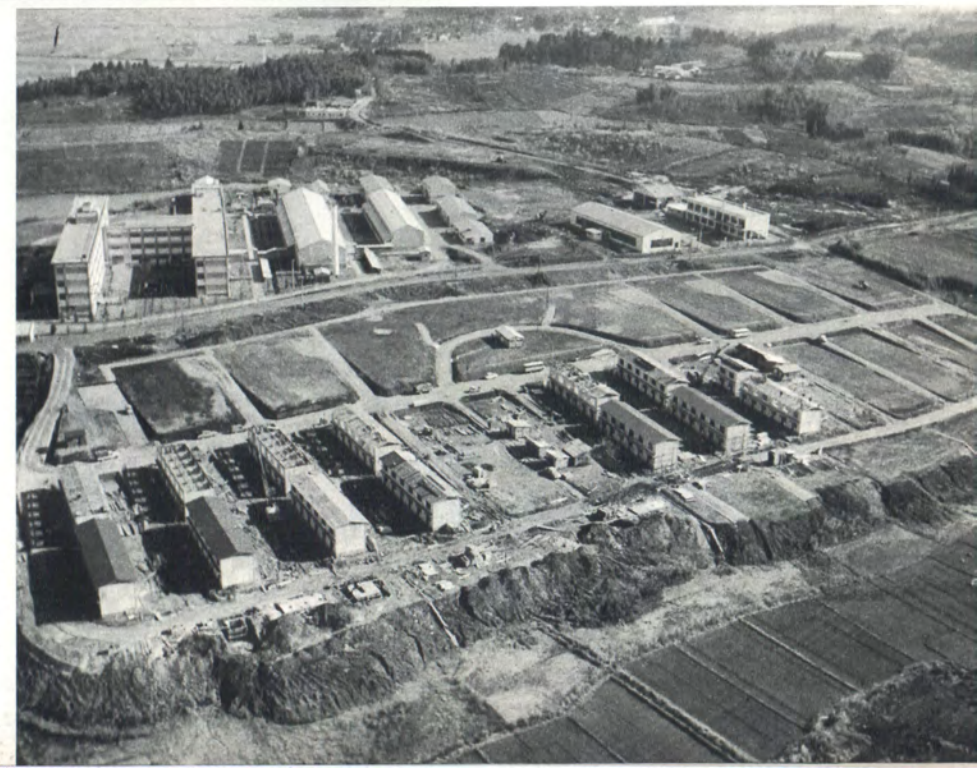


完成した身体障害者更生指導所(上)と老人保養センター

住宅政策

生活の基盤となる「住」の解決は、社会開発のうえからも、また産業基盤の整備の面からも、促進されています。

太閤山住宅団地

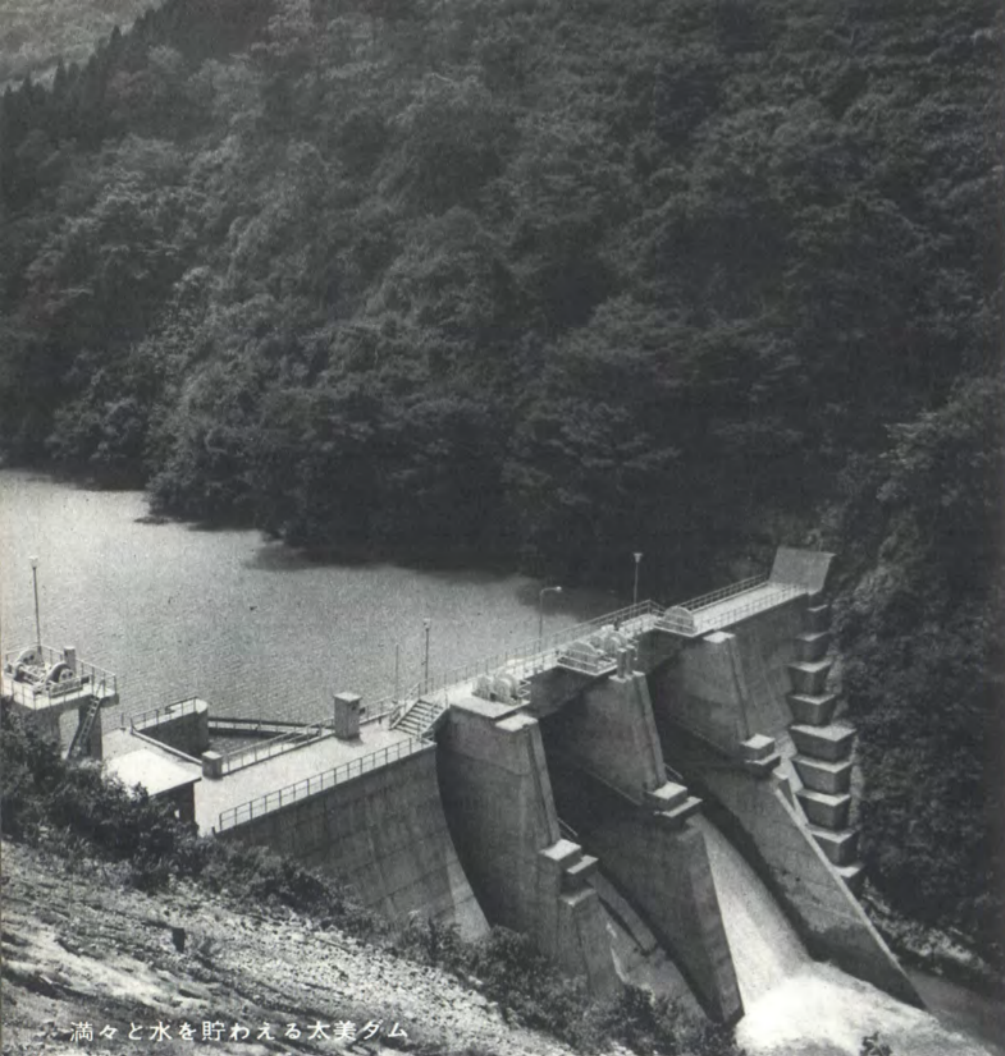


県営電気事業

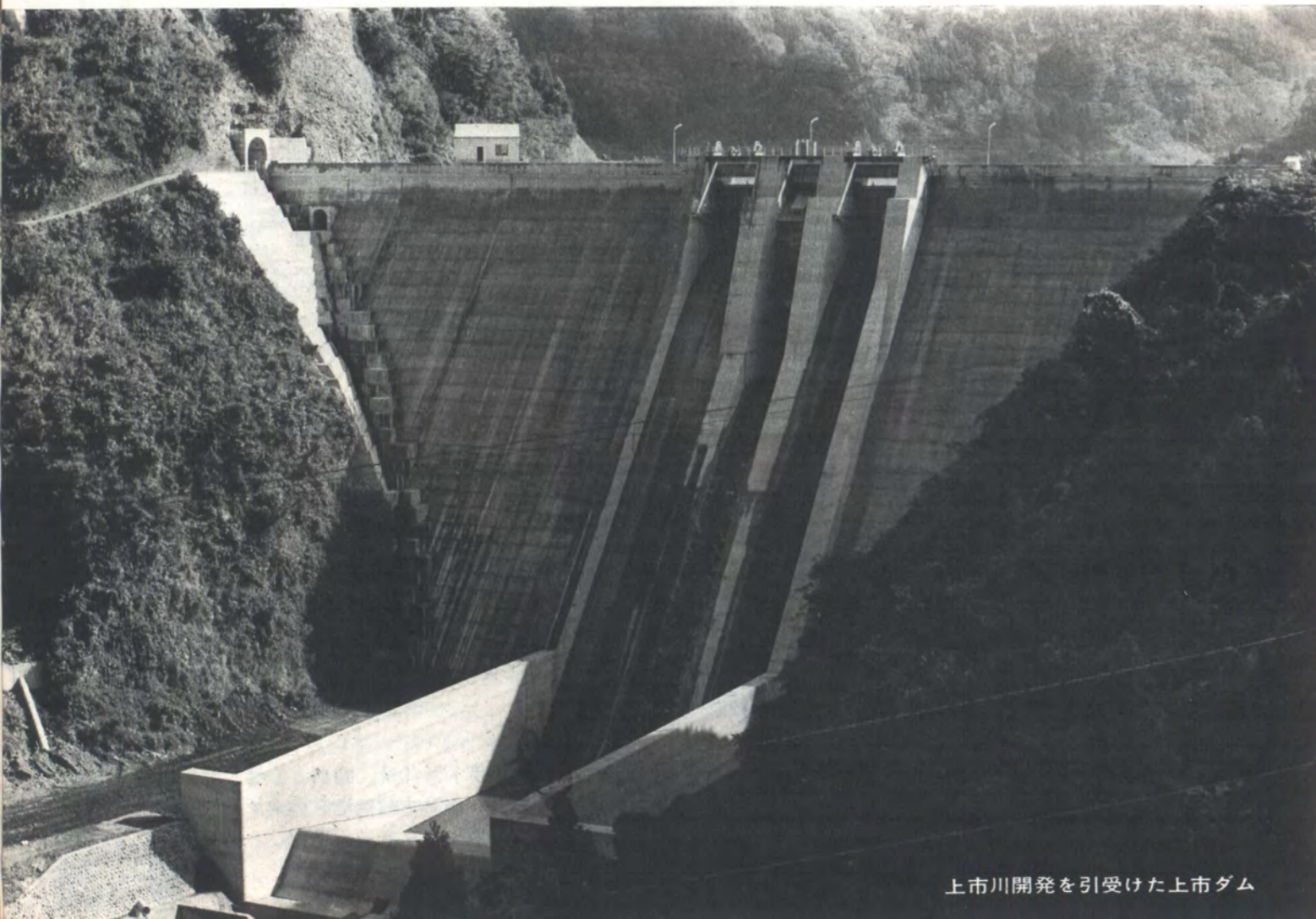
上市川ダムの完成、小矢部川開発など県営電気事業は、その後も着々と進み、和田川・利賀川の開発計画も軌道にのりました。

河川総合開発

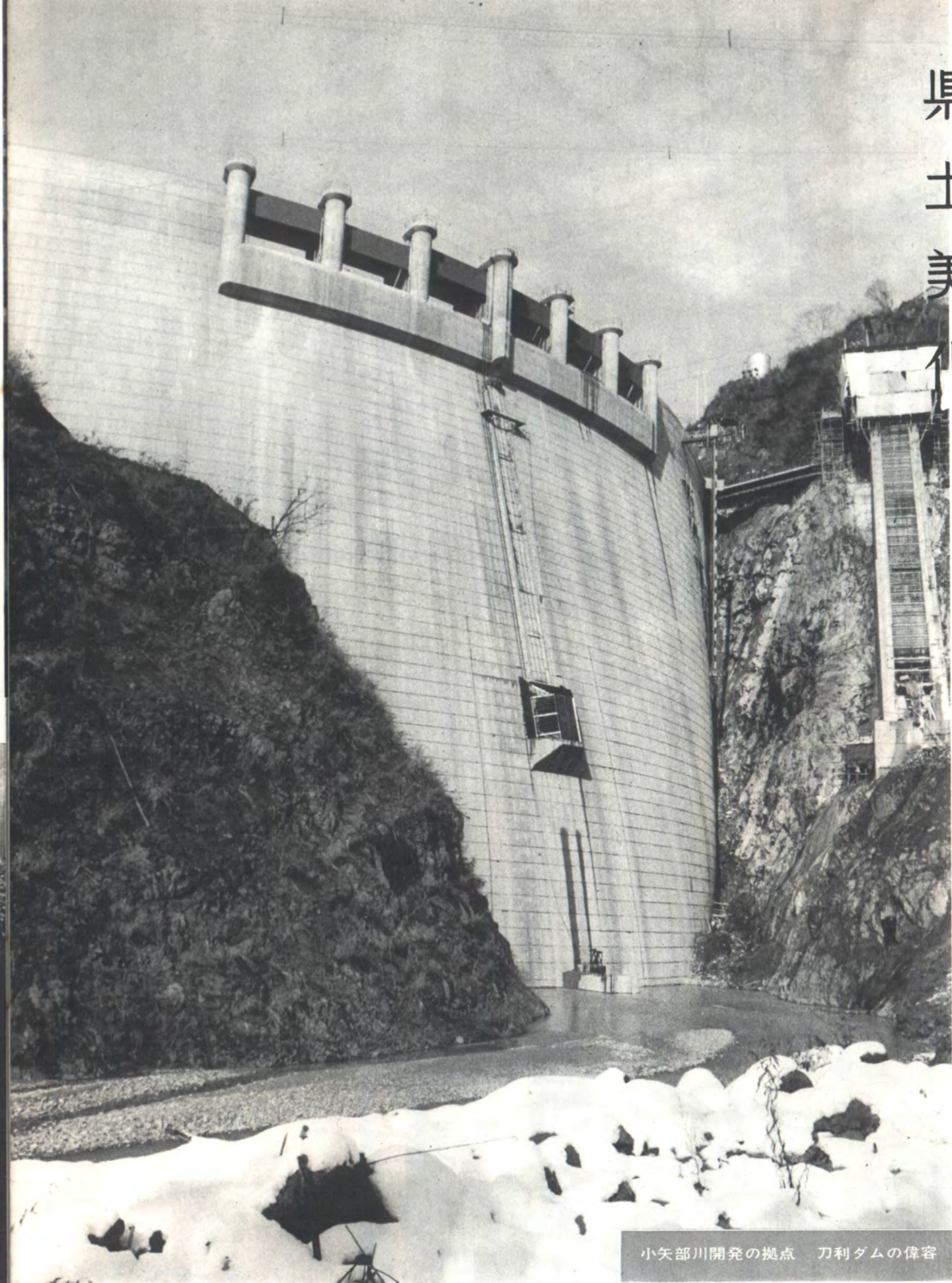
本県のあばれ川を治め、電力を起し、豊富な水で田畑を潤おし、工業や生活の水として利用するのが、河川総合開発です。



満々と水を貯わえる太美ダム



上市川開発を引受けた上市ダム



小矢部川開発の拠点 刀利ダムの偉容

私たちの祖先が、開拓し、試練に耐え、汗と涙で営々として築きあげてきた郷土。その美しい郷土は、いま巨大な人造湖や近代的な工場、楽しい家庭、そして豊かな産物で満ち満ちています。私たちはこの遺産の中で生活をする喜びにひたりながら、この遺産を保護し、いっそう豊かな美しい県土として、子孫に伝承する義務と責任を果たさなければなりません。



高波に立向うテトラポット群



海岸浸食

打ち寄せる大波による海岸浸食は激しい。これを防ぐテトラポットの積込や、護岸工事は郷土を守るいしずえです。

砂防地すべり対策

暴れ川を治める砂防、動く台地を治める地すべり対策は、災害を未然に防ぐとともに、美しい県土を保護する仕事でもあります。

39年7月16日、突如として起った氷見市胡桃地区の地すべり地帯の立直った姿(上)と砂防えん堤群(左)



河川改修事業

豪雨、台風は、中小河川の弱い部分にはらんを呼び、被害をまねく。河川の改修の手は、一日も休めることができません。



常願寺川に群立する河川枕床

林政事業

保安林の保全、奥地林の開発、子残す緑の遺産としての植林など、郷緑は伸び茂っています。

孫へ
土の



山ま
を治
もつ

治山事業

東にアルプスをかかえ、西も南も山に囲まれた本県は、これらの山めて、県土を保全する大きな事業をしています。



朝日町七重滝治山工事



雷鳥



咲きみだれる高山植物

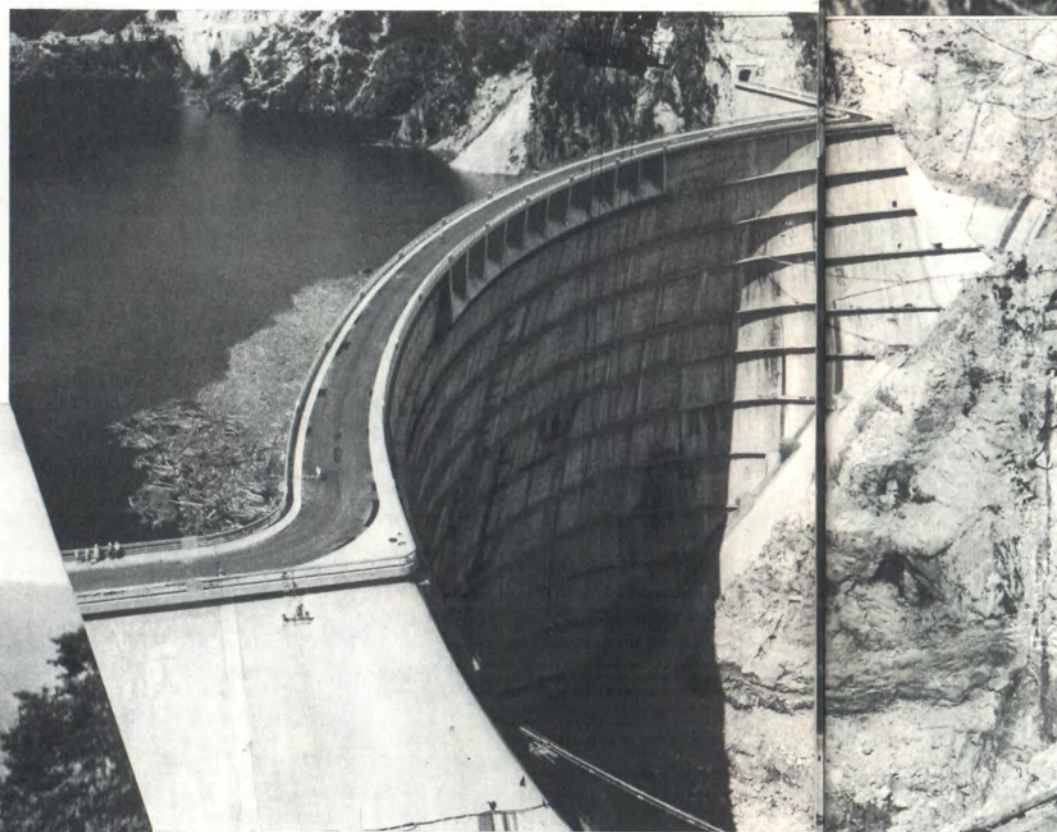


延々と続く立山観光道路

自然保護

県の鳥「雷鳥」など、美しい県土を守るために、自然を保護することは私たち県民の務めといえるでしょう。

有峰青少年の家が見える有峰の景観



世紀の工事、黒部ダムの偉容

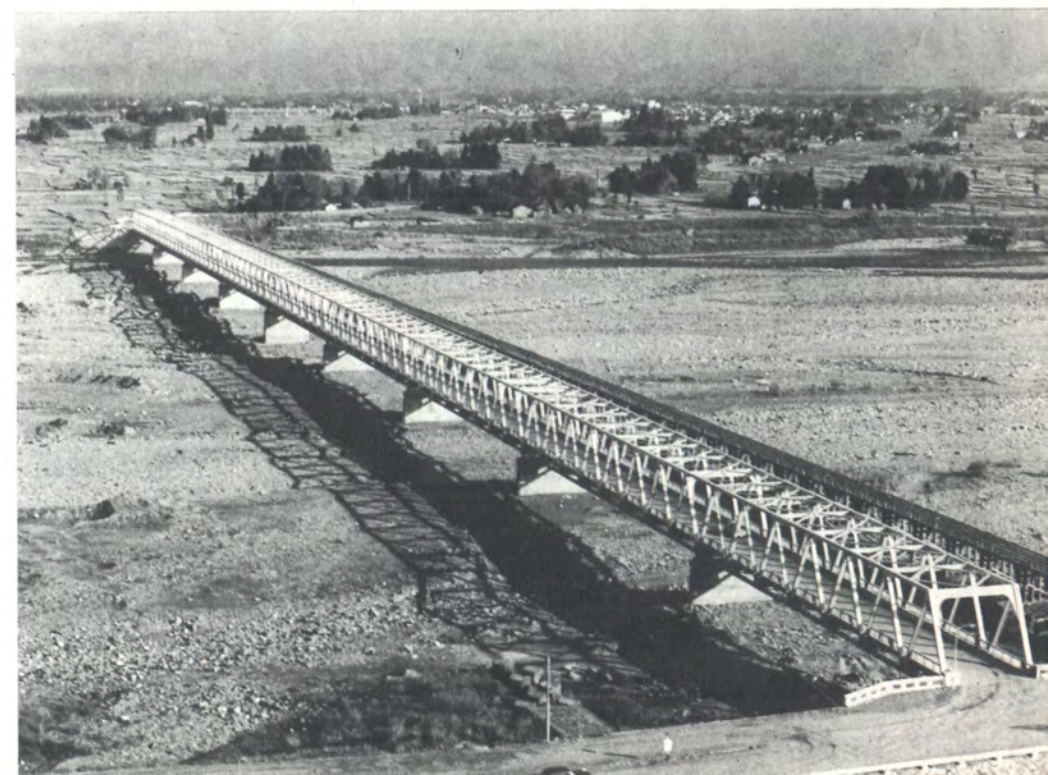
T・K・A 計画と

富山と長野を結ぶ観光道路立シネル工事に着手され、43年に既に出来あがっている黒部第四、観光地として、世界の人々が絶

観光

山ルートは、いよいよトは全線開通する予定。
有峰ダムとともに一大賛することでしょう。

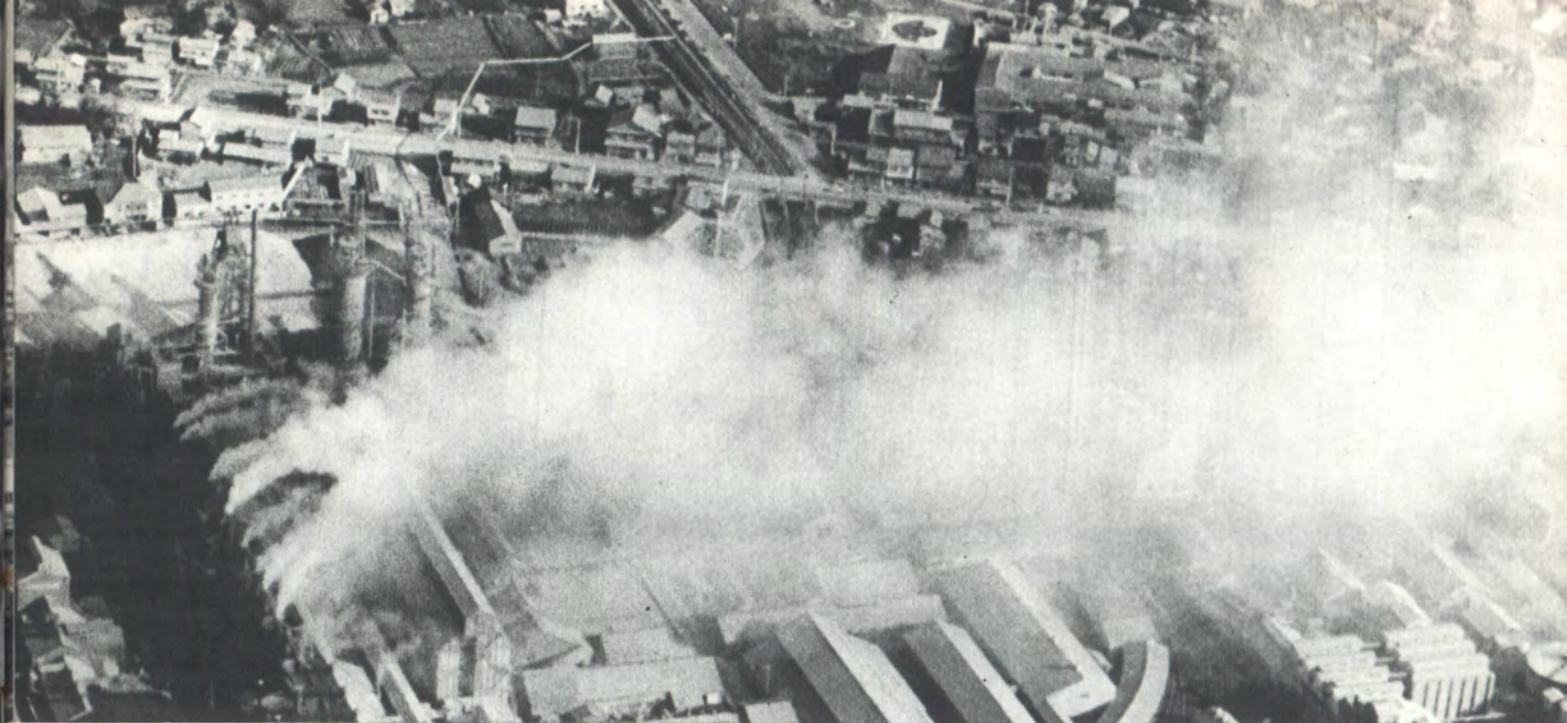
立山へ通ずる橋、大日橋完成



富山県人口の推移



国勢調査に見る富山県の人口動態



公害対策

車の排気ガス、工場からの煤煙、汚水などに対する公害対策は、県民の生活を守る近代行政の仕事となりました。

生活環境

ゴミの処理、野犬対策、上下水道の整備は、県民の生活環境をととのえ、美しい県土を守るために急がねばならない仕事です。



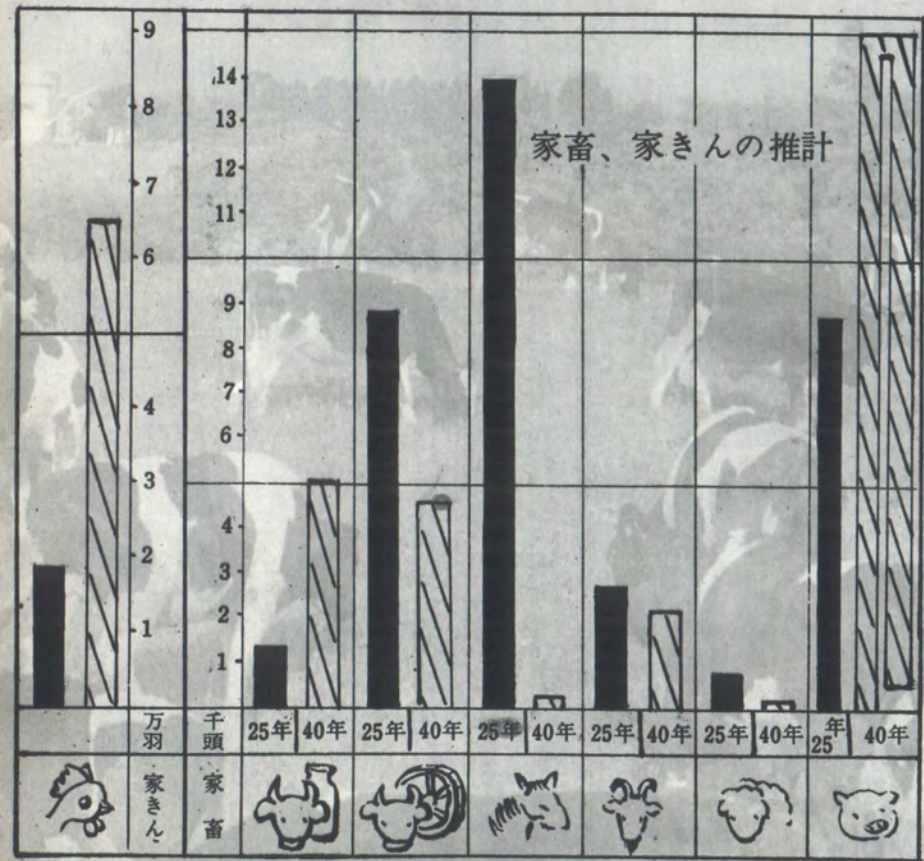
第10回国勢調査

今回の調査で県の総人口は102万5,452人となり、これは5年間に7千人減ったこととなります。

また世帯数は1万5千世帯増えたことがわかりました

農業センサス

農業人口は減りましたが、所得は増え、農家生活は農業機械化とともに近代化されてきました。



農業センサスから



沖縄の地に建立された「立山の塔」



明るい茶の間で平和な家庭づくり

平和県政
山びこ県政
計画県政



第3次富山県勢総合計画は慎重に審議される



県民の声は山びことなって県政に反映する

富山県民グラフ

昭和41年1月1日発行

編集人 富山県
 発行人 富山県
 印刷 中越印刷製紙株式会社



富山県